

資料編

1 水俣市文化財保存活用地域計画作成協議会

地域計画は、各分野の学識経験者、文化財関係団体、文化財が多く所在する地域の自治会長、商工・観光分野に携わる機関等の委員から成る「水俣市文化財保存活用地域計画作成協議会」を設置して、内容を検討しました。

表 35 水俣市文化財保存活用地域計画作成協議会委員

(順不同・敬称略)

委員氏名	専門分野・所属等
(学識経験者) 古賀実	環境分析化学 水俣環境アカデミア所長
(学識経験者) 伊東龍一	古建築 熊本大学名誉教授
(学識経験者) 杉井健	史跡・考古学 熊本大学教授
(学識経験者) 田中尚人	景観・まちづくり 熊本大学准教授
(学識経験者) 坂梨仁彦	動植物 県生物多様性検討委員
寒川満憲	文化財保存団体 久木野子ども伝統芸能講座実行委員会会長
前嶋正人	文化財保存団体 水俣市蘇峰会会長
淵上光明	自治会 1区自治会長
川添裕之	商工分野 水俣商工会議所
西川博文 (令和4・5<2022・23>年度) 塩崎真伍 (令和6<2024>年度～)	観光分野 水俣市観光物産協会
能登原孝道 (令和4・5<2022・23>年度) 木庭真由子 (令和6<2024>年度～)	熊本県教育庁教育総務局文化課
緒方卓也 (令和4<2022>年度) 中村俊彦 (令和5<2023>年度) 高橋麻衣 (令和6<2024>年度～)	水俣市経済観光課 水俣市観光スポーツ戦略課 水俣市観光戦略課
柿本英行	市まちづくり担当部局 水俣市地域振興課
設楽聡	市文化財保存活用担当部局 水俣市教育課

2 水俣市文化財保護審議会

地域計画は、有識者等で構成される「水俣市文化財保護審議会」への報告・意見徴取を行い、作成しました。

表 36 水俣市文化財保護審議会委員

委員氏名	専門分野
前嶋正人	歴史学
松田時義	歴史学
長峰智	地質学

3 計画作成作業の経過

地域計画は、令和4（2022）年度から作成に着手しました。

表 37 計画作成作業の経過

年度	作業の概要	内容
4 (2022)	計画の基礎となる文化財リスト作成、アンケート調査などを実施。市の歴史文化の特性を検討した。	<ul style="list-style-type: none">・文化財リストの作成・文化財保存活用地域計画作成協議会の設置、開催（2回）・市民アンケート・ワークショップの実施・「歴史文化の特性」（案）まとめ・文化財保護審議会の意見徴取・文化庁協議（WEB会議）
5 (2023)	文化財の保存・活用に関する現状と課題を抽出して方針、措置を検討した。さらに、文化財を効果的に保存・活用する「関連文化財群」「文化財保存活用区域」を検討した。	<ul style="list-style-type: none">・関係自治会・文化財保護団体等の意見徴取・文化財保存活用地域計画作成協議会の開催（3回）・文化財保護審議会の意見徴取・水俣市青少年育成市民会議主催「未来ラボ」参加による中・高生の文化財保存活用に関する意見徴取・文化財保存活用地域計画作成に関する説明会・文化庁協議（WEB会議・現地確認及び協議）
6 (2024)	文化財の保存・活用を推進する体制、パブリック・コメントを受けての案の見直し、計画全体について検討した。	<ul style="list-style-type: none">・文化財保存活用地域計画作成協議会の開催（2回）・パブリック・コメント募集・文化財保護審議会の意見徴取

4 市民アンケート調査について

水俣市の文化財行政への関心を高め理解を深めてもらうとともに、文化財に関する認識やニーズを把握するため、アンケートを実施しました。

(1) 調査の方法

- ・調査地域 水俣市全域（水俣市在住及び水俣市通学者）
- ・調査対象者 水俣市内在住の19歳以上の方から無作為に選んだ1000人
若い世代の意見を把握するため、市内の中学校・高校に通う589人を対象に配布（いずれも1・2年生）
- ・サンプル数 総配布数 1589枚、回収 789サンプル
- ・実施方法 郵送またはインターネット回答
- ・実施時期 令和5年（2023）1月23日から2月12日
- ・集計方法 回答全体をまとめた「単純集計」と、年齢ごと、居住地域ごとに区分した「クロス集計」を行った。

(2) 水俣市文化財保存活用地域計画に関するアンケート設問の趣旨

（アンケート依頼文と用紙は別紙のとおり）

- 1 年齢や居住区、居住年数（それによって回答が変化するか分析）
- 2 市民の文化財への関心度
- 3 市民は市のどのような文化財に関心があるか
- 4 市民の文化財への関心がない理由
- 5 市民は市の文化財や歴史文化資源をどの程度捉えているか
- 6 市民が文化財や歴史をどのようなものと捉えているか
- 7 計画の中で掲げようとしている「水俣市の歴史や文化の特徴」の認知度
- 8 市が現在行っている文化財保護のための取り組みの認知度
- 9 文化財を次世代に継承することについて必要性の認識
- 10 文化財を次世代に継承するため、市にどのような施策が必要と考えるか
- 11 市民が考える保存や活用が必要な文化財は
- 12 市民はどのような活動であれば、文化財の継承に参画できるか
- 13 市民が伝えたい文化財や、その他水俣らしいものは何か
- 14 文化財の保存活用に関して要望やアイデアなど自由記載

(3) アンケートの依頼文

みなまたしぶんかざいほぞんかつようちいきけいかく

水俣市文化財保存活用地域計画に関するアンケートのお願い

私たちの郷土水俣は、豊かな自然に恵まれ、長い歴史を育んできました。現在でも水俣城や徳富蘇峰・蘆花生家など多くの文化財や、地域の方々によって守られてきたお堂、祭り、長い時間をかけて育まれてきた風景などがあります。これらは、それぞれの時代で、それぞれの役割を担ってきた水俣市の歴史や文化の語り部であり、私たち市民の宝です。

しかし近年、人口減少や少子高齢化により、維持補修が困難になったり、継承者が確保できないこと等が課題になり、その保存が危惧されています。また、地域を特徴づけ、魅力を発信する可能性を持ちながら、十分活用されないために人々の記憶から消えていく文化財もあります。

そのため、水俣市ではこれらの市民の宝を地域の魅力向上のために活用しつつ、継承の担い手を確保し、みんなで守っていくための計画づくりを行っています。

この作成にあたり、市民の皆様からのご意見を取り入れるために、アンケートを実施することになりました。アンケートは、市内にお住いの19歳以上の方から無作為に選んだ1,000人の方を対象に実施するもので、今回、あなたが選ばれました。お忙しいところに誠に恐縮ではございますが、この調査の趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力くださいますよう、お願いいたします。

ご記入にあたっての注意点

- ・黒ボールペンで記入ください。
- ・ご記入後は、同封した封筒にてご返送ください。
- ・封筒の宛名にある方が回答ください。
- ・スマートフォン等をお持ちの方はこちらからも回答いただけます。
- ・回収したデータは個人が特定されないよう統計的に処理し、ご回答いただいた方に迷惑をおかけすることはありません。
- ・回答期限は 令和5年2月12日 です。



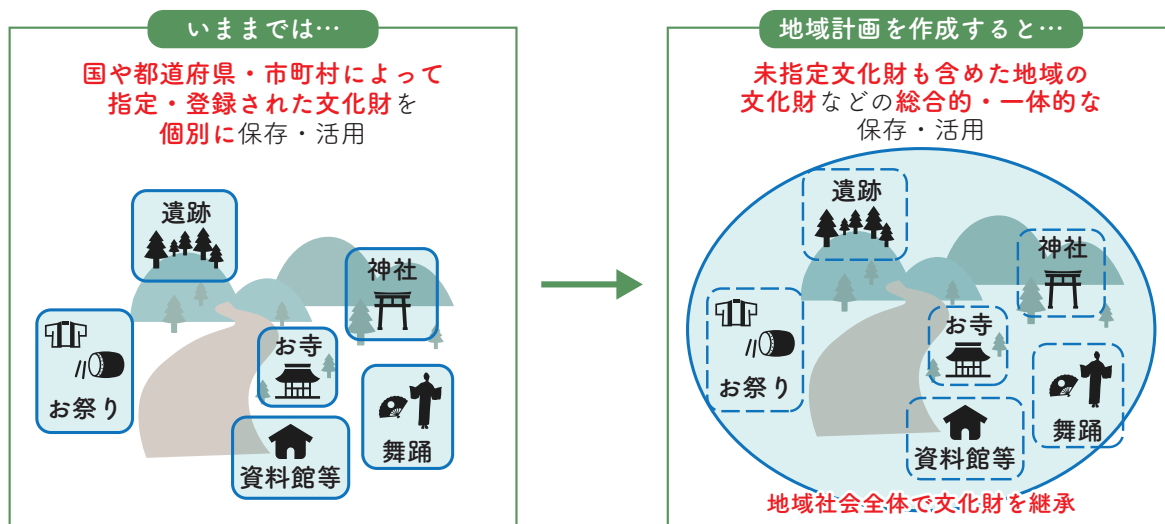
文化財保存活用地域計画については、裏面をご覧ください

返信・問合せ先

水俣市教育委員会教育課 生涯学習室
〒867-8555 熊本県水俣市陣内1丁目1番1号
TEL：0966-61-1639 FAX：0966-63-9502

Q. 水俣市文化財保存活用地域計画ってなに？

「文化財保存活用地域計画」とは、地域の文化財などの歴史文化資源を改めて見直し、自治体と地域が総がかりで守り、活かしていくための方針と施策を定める計画です。



Q. 計画をつくる目的はなに？

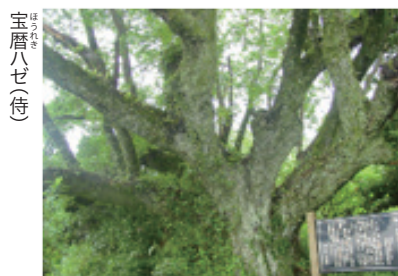
市内各地に残された歴史文化の豊かさを再認識し、それらを守りながら、地域づくりの資源として活用するための基盤を作るためにつくります。

Q. 計画の期間は？

計画を策定後、10年をめぐりに見直しを行います。

Q. 計画の対象となる文化財はどんなものですか？

本市の歴史や文化、自然等の特徴を物語るお城や神社、お寺などの建造物や仏像、絵画や伝統的な行事などの文化財のほか、地域で大切に継承されてきた、または日常的に親しまれている様々なものを対象とします。



(4) アンケート用紙

文化財保存活用地域計画に関する アンケート

アンケート実施期間
2023年1月23日(月)～2月12日(日)

返信・問い合わせ先
水俣市 教育委員会 教育課 生涯学習室
〒867-8555 熊本県水俣市陣内1丁目1番1号
電話：0966-61-1639 FAX：0966-63-9502

スマートフォンをお使いの方は
こちらからもご回答いただけます。



1 あなた自身について可能な範囲で教えてください

①年齢	<input type="checkbox"/> 10代 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 <input type="checkbox"/> 70代 <input type="checkbox"/> 80代～
②お住まい	水俣市 区(区がわからない場合は、町名等を記載ください)
③水俣市での 居住年数	<input type="checkbox"/> 5年未満 <input type="checkbox"/> 5年以上10年未満 <input type="checkbox"/> 10年以上20年未満 <input type="checkbox"/> 20年以上30年未満 <input type="checkbox"/> 30年以上

2 あなたは水俣市の文化財や歴史に興味・関心がありますか

ある どちらからと言えばある どちらかと言えばない ない わからない

3 問2で「ある」「どちらからと言えばある」と回答した方におたずねします 水俣市のどのような文化財に興味・関心がありますか(複数選択可)

- 寺社や仏像 町並み、街道跡など歴史的な景観 古い建物、建造物 石橋
 徳富蘇峰・蘆花に関連する施設(水俣市立蘇峰記念館・徳富蘇峰・蘆花生家) 遺跡や出土品
 城跡 西南戦争に関連する遺跡や資料 滝や棚田などの美しい景色や眺望の良い場所
 地域の祭りなどの伝統行事 昔の農業や漁業、生活に使われていた道具 美術品、工芸品
 巨木 稀少動植物やそれを育む自然 歴史的な古文書や書籍 民話や伝承、民謡、踊り
 水俣市の歴史に関わる人物や水俣市出身の人物
 その他()

4 問2で「ない」「どちらかと言えばない」と回答した人におたずねします あなたが地域の文化財に興味・関心がないのはなぜですか(複数選択可)

- 実際の生活に直接関わりがない 難しい・わかりにくい 身近にない
 自分にはあまり関係がない 時間に余裕がない
 その他()

5 あなたは水俣市が文化財や歴史的な資源が豊富なまちであると思いますか

そう思う どちらからと言えばそう思う どちらかと言えばそう思わない ない わからない

6 あなたは水俣市の文化財や歴史にどのようなイメージを持っていますか(複数選択可)

- 大切な宝物・誇り 魅力的な街の形成や観光、産業振興に重要なもの
 未来へ伝えていくべきもの 厄介で面倒なもの 難しいもの、よくわからないもの
 自分にはあまり関係がないもの 特にない わからない
 その他()

次のページにもアンケートがあります

7 次の水俣の歴史や文化などに関する記述のうち、あなたが知っているものはどれですか（複数選択可）

- 山地が多く平地が少ない 稲作にはあまり適さない土地で、水田や水の確保に大変な苦勞をしてきた
- 古代から中央と地方をつなぐ大きな道が通り、熊本方面から鹿児島方面へ行き来するための交通の要所だった
- 水俣川と湯出川は、昭和7～9年に河川改修が行われるまで、海まで別々に流れていた
- 河川改修前までは、浜町や川岸の船着き場で物流や人の流れが多くにぎわっていた
- 南九州に分布する形式の古墳が見られることから、その時代は熊本北部と異なる文化圏であった
- 江戸時代まで肥後と薩摩との争いが多く、防衛が重要であったことから水俣城等が築かれていた
- 徳富蘇峰や蘆花などの偉人を生んだ教育的な風土がある
- 河口や海岸部などに塩田があり、塩づくりが行われていた
- 江戸時代からろうそくの原料となるハゼノキが植えられていた
- 明治時代以降、工場の立地や河川改修などで街並みが変化した
- 水俣病公害防止事業によって水俣湾の埋め立てが行われるなど、海岸線が変わっている
- 公害を教訓にしたゴミ分別収集や、環境産業の誘致など、環境保全や自然との共生に力を入れている
- 海岸線は北はリアス海岸、河口部は遠浅、南側は袋状になった袋湾など変化に富んでいる
- わからない ない
- その他（ ）

8 現在、水俣市では文化財を守る取り組みを行っていますが、ご存じのものはありますか（複数選択可）

- 徳富蘇峰・蘆花生家、水俣市立蘇峰記念館の公開・保存修理 無田湿原の保護
- 指定文化財となっている巨樹の管理 遺跡の発掘調査 昔の農具などの保管
- 文化財の維持管理や民俗芸能を継承する活動への支援 文化財パンフレットの刊行や配布
- わからない
- その他（ ）

9 文化財を保存し、次世代に継承していくことは必要だと思いますか

- 必要 どちらかと言えば必要 どちらかと言えば必要ない 必要ない わからない

10 問9で「必要」「どちらかと言えば必要」と回答した人におたずねします
水俣市の文化財を適切に継承していくために、市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか（複数選択可）

- 文化財の保存修復 文化財の防犯・防災対策
- 文化財に多くの人々が立ち寄れるための整備、文化財が見やすく、分かりやすくなるための整備
- 文化財に関する情報発信 歴史や文化財を知る機会の充実（講座など）
- 歴史や文化財に親しむ機会の充実（祭りやコンサートなどのイベント）
- 歴史や文化財の調査研究の推進
- 案内ボランティアの育成 地域や所有者、ボランティアによる文化財の管理や修繕などに対する支援
- 文化財の看板、案内板の充実 伝統芸能や技術などの継承者の支援
- 学校教育における郷土史学習の充実や文化財の活用 資料館などの展示施設の整備
- 歴史や文化財を活用したまちづくり、観光 わからない ない
- その他（ ）

11

問9で「必要ない」「どちらかと言えば必要ない」と回答した人におたずねします
あなたが文化財を保存し、次世代に継承していくことは必要ないと思うのはなぜですか
(複数選択可)

- 実際の生活に直接関わりがない 自分にはあまり関係がない 厄介で面倒
 難しい・わかりにくい 残しても意味がない 税金の無駄遣い
 その他 ()

12

水俣市の文化財のうち、保存や活用に力を入れてもらいたいものは何ですか (複数選択可)

- 寺社や仏像 町並み、街道跡など歴史的な景観 古い建物、建造物 石橋
 徳富蘇峰・蘆花に関連する施設 (水俣市立蘇峰記念館・徳富蘇峰・蘆花生家) 遺跡や出土品
 城跡 西南戦争に関連する遺跡や資料 滝や棚田などの美しい景色や眺望の良い場所
 地域の祭りなどの伝統行事 昔の農業や漁業、生活に使われていた道具 美術品、工芸品
 巨木 稀少動植物やそれを育む自然 歴史的な古文書や書籍 民話や伝承、民謡、踊り
 水俣市の歴史に関わる人物や水俣市出身の人物 地名
 その他 ()

13

水俣市の文化財を保存し、次世代に適切に継承していくために、
あなたが協力できそうなことや考えられそうなことを教えてください (複数選択可)

- 文化財の清掃活動などへの参加 文化財に関する講座やイベントなどへの参加
 伝統芸能を教える・学ぶ 文化財を守る活動への寄付
 文化財の案内や、調査、保存修理などにおけるボランティア
 歴史や文化財を調べたり、研究する 地域の祭りや伝統行事への参加
 歴史や文化財に関する SNS などを活用した情報発信
 わからない ない
 その他 ()

14

あなたが未来に伝えたいと思う水俣市の文化財や、
水俣市の歴史や文化に関連するものは何ですか (複数選択可)

- 水俣市立蘇峰記念館 徳富蘇峰・蘆花生家 徳富蘇峰の業績 徳富蘆花の業績
 徳富蘇峰や蘆花に関連する記念碑 淵上毛銭や谷川健一など文化人の業績
 陣内官軍墓地などの西南戦争に関連する遺跡 水俣城などの城址 神社やお寺
 小さなお堂や道ばたの神様 石橋 薩摩街道
 棒踊りなどの地域に伝わる芸能 南福寺貝塚や石飛遺跡などの遺跡
 薄原神社のナギノキなどの巨木 無田湿原 棚田の風景 茶畑の風景
 川 海岸 温泉 滝 ハゼの木
 矢筈岳のような高い山々 方言 民話や伝承 競舟大会
 水俣病の教訓 分別収集 豪雨災害の教訓 日本一長い運動場
 豊かな自然 生き物 地名

次のページにもアンケートがあります

15

問14の選択肢にあげたもののほか、あなたが未来に伝えたいものがあれば教えてください
(水俣市らしいと思う食文化や暮らし、地域で守られてきた風習、行事、伝統的な技術、場所、
キーワードなどでも構いません)

16

最後に、文化財の保存活用に関して要望やアイデアがありましたら、ご自由にお書きください

アンケートへのご協力、ありがとうございました

(5) アンケートの結果

水俣市内の中学校・高校にアンケートを配布し、学校における回答率が高かったため、回答者の68%以上を10代が占めている。

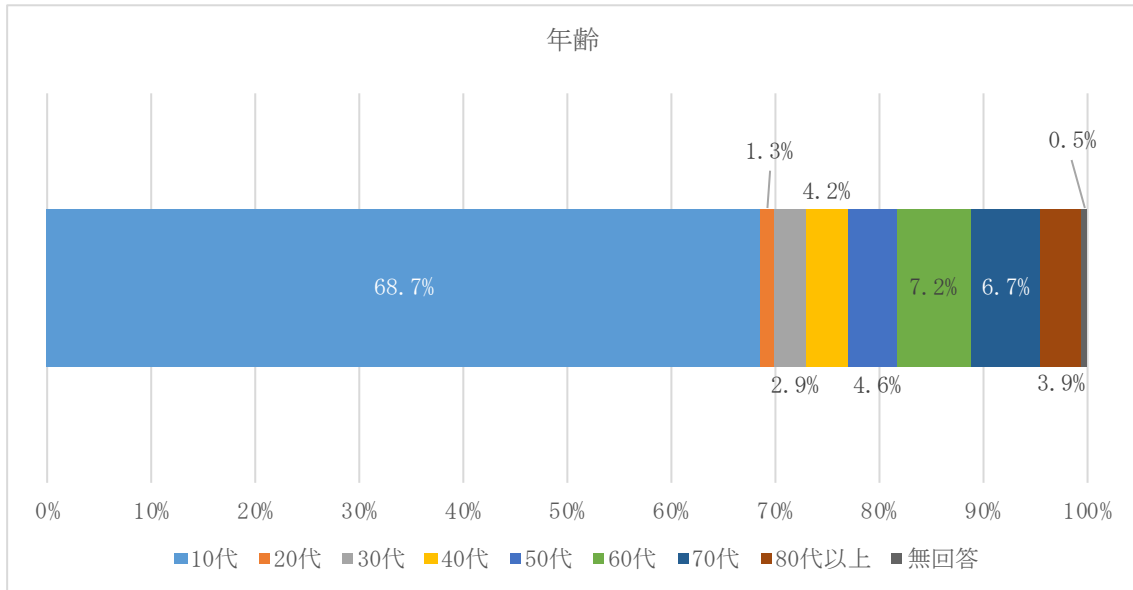


図 32 年齢別の回答率

①全体の結果

・文化財、歴史への興味・関心の有無（設問2）

文化財や歴史に興味・関心があるかとの設問に対して、「ある」「どちらかといえばある」のポジティブな回答は46.9%、「ない」「どちらかといえばない」のネガティブな回答が46.5%で拮抗している。

・関心を寄せる文化財：複数選択（設問3）

関心を寄せる歴史や文化財は、関心がある人の中でも、歴史上の出来事などの事象に関する文化財より、「景観」「眺望」が比較的多かった。次いで、「街並み・街道跡など歴史的な景観」、「水俣市の歴史に関わる人物」や「水俣市出身の人物」であった。

・関心がない理由（設問4）

実際の生活に関りが無い、関係がないという回答が多かった。

・歴史的な資源が豊富なまちと思うか（設問5）

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計が51.8%、「ない」「どちらかと言えばそう思わない」が25.0%。「わからない」の回答は22.2%であった。

・文化財、歴史のイメージ：複数選択（設問6）

「未来へ伝えていくべきもの」という認識が突出しており、次いで「大切な宝物・誇り」、「魅力的な街の形成や観光、産業振興に重要なもの」という認識が続く。一方で、「わからない」「特になし」「難しいもの、よくわからない」という意見もある。

・歴史文化に関する記述のうち、知っているもの：複数選択（設問7）

「徳富蘇峰・蘆花」を除いて近代以前の記載については少なく、「水俣病公害防止事業による海岸部の埋め立て」や、公害を教訓にした取組が多い。次いで、「徳富蘇峰・蘆花」、「山地が多く平地が少ない」という地理的状况がよく認識されている。

その意識は設問14「あなたが未来に伝えたいと思う文化財」にも反映しており、蘇峰・蘆花のほか「水俣病の教訓」を選択する回答が多く見られた。

・市の文化財施策の認知度：複数選択（設問8）

「徳富蘇峰・蘆花生家、水俣市立蘇峰記念館の公開・保存修理」が突出している。次いで、「わからない」が多い。「無田湿原の保護」や「遺跡の発掘調査」が認識はされているが、施策の認知度は低い。

・文化財を継承する必要性はあるか（設問9）

設問2において、文化財、歴史への興味・関心の有無は拮抗していたものの、継承する必要性については、ポジティブな意見が85.0%と高かった。

・継承するために市はどのようなことをするべきか：複数選択（設問10）

「文化財の保存修復、文化財を見やすくわかりやすくするための整備」が最も多く、次いで、「情報発信」が続く。また、「まちづくりや観光への活用」も多い。ほかには「歴史や文化財に親しむ機会」や、「学校教育における活用」も期待されている。

・文化財の継承が必要ない理由（設問11）

設問9で、継承が「必要ない」、「どちらかと言えば必要ない」と回答した人数は全体の5.4%と少なかったが、そう思う理由としては「難しく、わかりづらい」という意見があり、次いで、「税金の無駄遣い」と続く。

・具体的に力をいれるべき文化財：複数選択（設問12）

アンケート実施当時、休館していることが認識されていたかどうか不明だが、「徳富蘇峰・蘆花に関連する施設」とする意見が多かった。次いで、「滝」や「棚田」などの美しい景色や眺望の良い場所への対策が望まれている。「街並み・街道跡の歴史的な景観」、「地域の祭り」など伝統行事も回答数が比較的多い。

・市民ができることはなにか：複数選択（設問13）

祭りや伝統行事への参加が多い。次いで、清掃活動など。

また、「温泉」「川」「豊かな自然」を残したいという回答も多かった。このほか、自由記載では「エコパーク」を未来に伝えたいというものがあつた。

・未来へ伝えたい文化財は：複数選択（設問14）

「水俣病の教訓」が最も多い。次いで、「温泉」「豊かな自然」「水俣市立蘇峰記念館」「川」「徳富蘇峰・蘆花生家」と続く。自然系の回答が多く、「豊かな自然」は漠然とした選択肢であったが、市民が大切にしたいと認識していることがうかがえる。市民が自ら行ってい

るためか、ごみの「分別収集」も回答数が多い。

・未来に伝えたいもの：自由記載（設問 15）

水俣病の教訓を発信することに関係するものが多かった。また、エコパーク、蜂楽饅頭、恋籠祭の回答もあった。

②年齢別の結果

・文化財、歴史への興味、関心の有無（設問 2）

10代・20代の関心度が低く、70代以上は高い。

・関心を寄せる文化財（設問 3）

他の年代に比べて、10代・20代は「地域の祭りなどの伝統行事」の回答が多い傾向があった。

・歴史的な資源が豊富なまちと思うか（設問 5）

設問 2 の興味・関心度は 70 代以上が高いが、資源が豊富と認識しているのは 10 代・20 代であった。

・文化財、歴史のイメージ：複数選択（設問 6）

全年代にわたってポジティブな回答が多い。

・歴史文化に関する記述のうち、知っているもの：複数選択（設問 7）

全年代にわたって、「水俣病公害防止事業による海岸部の埋め立て」や、「公害を教訓にした取り組み」が多い。

・市の文化財施策の認知度：複数選択（設問 8）

全年代で「徳富蘇峰・蘆花生家、水俣市立蘇峰記念館の公開・保存修理」が突出している。10代・20代で「わからない」が多い。30代以上で「遺跡の発掘調査」「無田湿原の保護」の比率が高い。

・文化財を継承する必要性はあるか（設問 9）

設問 2 と同じ傾向で、10代・20代が低く、70代以上が高い。

・継承するために市はどのようなことをすべきか：複数選択（設問 10）

全年代で、「文化財の保存修復」「文化財を見やすくわかりやすくするための整備」が多く、次いで、「情報発信」が続く。10代から60代にかけて「情報発信」が多いが、70代以上は「文化財の看板、案内板の充実」を求める声が多い。

・具体的に力をいれるべき文化財：複数選択（設問 12）

全年代で、回答に差は見られない。

・市民ができることはなにか：複数選択（設問 13）

全年代で、「祭りや伝統行事への参加」や「清掃活動」などは可能と認識している。若い世代は「伝統芸能を教える、学ぶ」が多いが、教える立場である年齢層にはその意欲はないようである。また 10 代・20 代のみ SNS を活用した情報発信に積極的である。

③地域別の結果

水俣市の自治区を用いて、居住地を 4 つに分類した。

- ・市街地：1 区、2 区、3 区、4 区、5 区、19 区、20 区、21 区、22 区
- ・中間地：6 区、7 区、8 区、17 区、18 区
- ・山間地：9 区、10 区、11 区、12 区、13 区、14 区、15 区、16 区、23 区、24 区、25 区、26 区
- ・その他：市外、不明（無回答）など

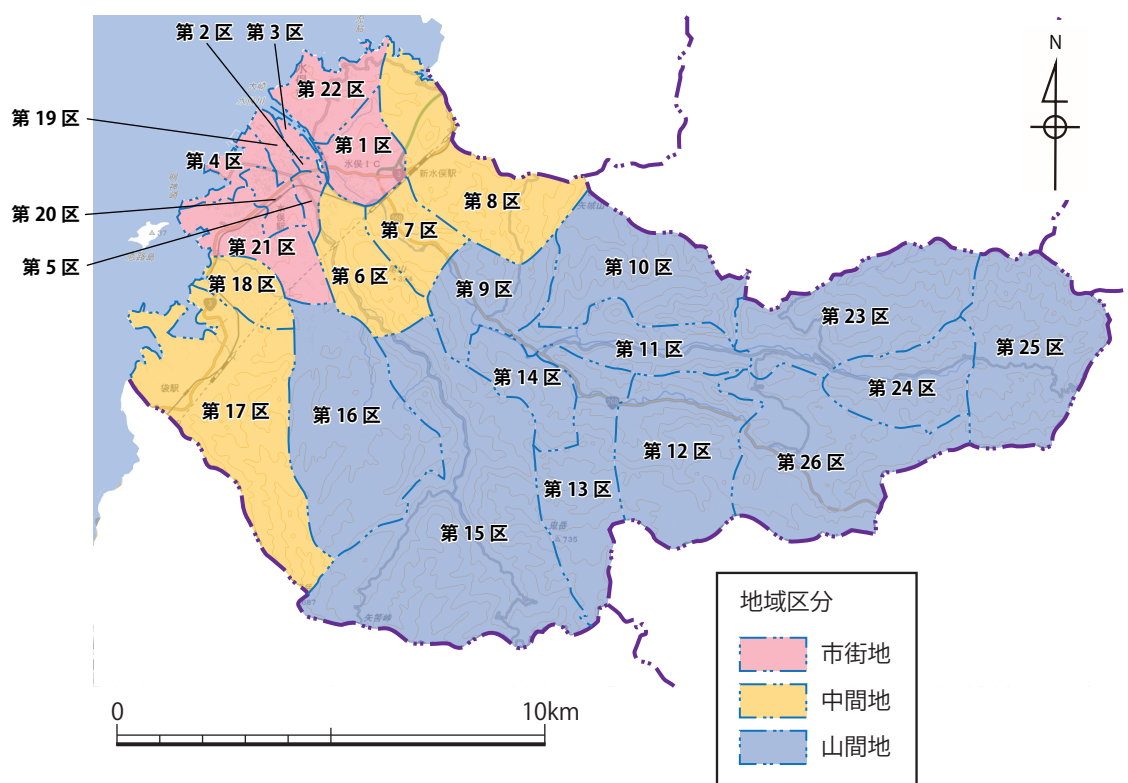


図 33 水俣市地区区分図

・文化財、歴史への興味、関心の有無（設問 2）

中間地の関心度が低い。市街地ではネガティブな回答が多い。

・関心を寄せる文化財：複数選択（設問 3）

全地域で回答に大きな差は見られないが、山間地では「城跡」が票を集めた。

・関心がない理由（設問 4）

市街地で、「実際の生活において関りが無い」の回答が多かった。

・歴史的な資源が豊富なまちと思うか（設問 5）

中間地が最もポジティブな回答が多く、設問 2 の関心度も高い。市街地では設問 2 において興味・関心はないが、歴史的資源が多いと感じている。山間地では興味・関心を持ちつつも、文化財が豊富とは考えていない。

・文化財、歴史のイメージ：複数選択（設問 6）

全地域で回答に変化は見られない。

・歴史文化に関する記述のうち、知っているもの：複数選択（設問 7）

全地域で回答に変化は見られない。

・市の文化財施策の認知度：複数選択（設問 8）

全地域で「徳富蘇峰・蘆花生家、水俣市立蘇峰記念館の公開・保存修理」が 1 位であった。

・文化財を継承する必要性はあるか（設問 9）

中間地がポジティブな回答の割合が最も高い。

・継承するために市はどのようなことをすべきか（設問 10）

全地域で、「文化財の保存修復」「文化財を見やすくわかりやすくするための整備」、次いで、「情報発信」が続く。中間地、山間地では「文化財の保存修復」が最も多いが、市街地では文化財を身近にする整備に票が集まった。

・具体的に力をいれるべき文化財：複数選択（設問 12）

全地域で回答に差は見られない。

・市民ができることはなにか：複数選択（設問 13）

全地域で回答に差は見られない。

・未来へ伝えたい文化財は：複数選択（設問 14）

山間地を除き、「水俣病の教訓」が 1 位となった。山間地では「温泉」が 1 位であった。「温泉」は市街地では 2 位、中間地で 4 位となった。湯の鶴温泉が山間地、湯の兎温泉が市街地にあることが影響している。また山間地では「徳富蘇峰・蘆花」に係る選択肢が多い傾向があった。

④総括

- ・歴史や文化に良いイメージを持っているものの、歴史的な事柄やそれらが生んできた文化財については、認識度が低い傾向にある。「水俣病の教訓の発信」を市の文化として捉え、継承しようと考えている。自然に対する関心が高いのも、これに影響されている可能性がある。
- ・今後文化財の継承を担っていく若い世代は、歴史的な資源が豊富にあると感じる一方で、継承に対する認識が低い傾向にある。

- ・関連する施設がある徳富蘇峰・蘆花への認識や、施設の保存の必要性の認識は高い。
- ・歴史的資源が多いという認識が、必ずしも継承すべきとの認識につながらない。